

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	2-(3)-才	保健衛生の推進	施策	⑤薬物乱用防止対策の推進	
			施策の小項目名	—	
主な取組	麻薬等対策事業			実施計画記載頁	131
対応する主な課題	⑥本県の薬物事犯者数は、増加傾向にあり、過去5年間の平均で毎年約160名が検挙されている。覚せい剤事犯については、再犯率が高く、再乱用防止対策が求められている。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
薬物教育や地域に根ざした薬物乱用防止啓発活動を実施するとともに、薬物密売組織及び末端乱用者への対策を徹底し、薬物依存・中毒者の治療・社会復帰及び家族への支援の充実強化による再乱用防止対策の推進など関係機関が一体となった活動を実施する。		65回 普及啓発				85回
実施主体	県、関係機関					
担当部課【連絡先】	保健医療部衛生薬務課 【098-866-2055】					
		薬物乱用防止啓発活動				
		依存・再乱用防止対策				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況							(単位:千円)			
予算事業名 麻薬等対策事業							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
県単等	直接実施	6,017	3,807	3,510	3,022	4,831	5,435	県単等	○H29年度: 学校、地域等における薬物乱用防止講習会の開催(25回) 地域等における薬物乱用防止普及啓発のための街頭キャンペーンの実施(13回) ○H30年度: 学校、地域等における薬物乱用防止講習会の開催(22回) 地域等における薬物乱用防止普及啓発のための街頭キャンペーンの実施(12回)	
予算事業名 薬物乱用防止特別啓発事業							H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画	
主な財源	実施方法	H25年度決算額	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
県単等	委託	2,325	2,545	2,593	2,766	2,994	2,994	県単等	○H29年度: 薬物乱用防止指導員等の研修会の開催(7回) 薬物乱用者等を対象とした薬物再乱用防止教室の開催(30回) ○H30年度: 薬物乱用防止指導員等の研修会の開催(6回) 薬物乱用者等を対象とした薬物再乱用防止教室の開催(30回)	

様式1(主な取組)

活動指標名	普及啓発活動回数				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		59回	98回	126回	102回	75回	65回	100.0%	7,825	順調
活動指標名					H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					H29年度					
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
<p>①薬物再乱用防止教室の取組をより効果的に推進するため、医療機関や薬物依存症リハビリ施設等との会議や研修会を通じて、麻薬等対策について連携を強化する。</p> <p>②多様化する薬物乱用問題に対応するため、専門的な研修等を行い薬物乱用防止指導員等の資質向上を図る。</p>						<p>①医療機関や薬物依存症リハビリ施設等との会議や研修会を通じて、情報共有や意見交換を行ったことにより、麻薬等対策について連携を強化することができた。</p> <p>②多様化する薬物乱用問題に対して、専門的な研修等を行い薬物乱用防止指導員等の資質向上を図ることができた。</p>				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証(Check)

#### (1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

##### ○内部要因

- ・薬物乱用防止の広報啓発の一端を担う薬物乱用防止指導員であるが、講習会の講師をできる指導員が不足している。
- ・薬物再乱用防止対策の取り組みにより、薬物乱用からの回復支援に一定の効果が得られているが、医療機関や相談機関等との連携が十分とは言えない。

##### ○外部環境の変化

- ・平成25年10月の法改正により危険ドラッグの規制が強化されたこと等により、県内の危険ドラッグ販売店舗は平成26年12月には0店舗となったが、大麻、覚醒剤等の薬物事犯者数は増加傾向にある。
- ・薬物依存の女性が利用できる民間のリハビリ施設が平成28年4月に新たに開設された。また、認知行動療法を用いた薬物依存症治療を行う施設も増加している。

#### (2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・薬物再乱用防止対策をより効果的に推進するため、医療機関や相談機関、薬物依存症リハビリ施設等の連携強化を引き続き図る必要がある。
- ・多様化する薬物乱用問題に対応するため、薬物乱用防止指導員の資質向上を引き続き図る必要がある。

### 4 取組の改善案(Action)

- ・薬物再乱用防止教室の取組をより効果的に推進するため、医療機関や薬物依存症リハビリ施設等との会議や研修会を通じて、薬物再乱用防止対策について引き続き連携を強化する。
- ・多様化する薬物乱用問題に対応するため、専門的な研修等を行い薬物乱用防止指導員等の資質向上を引き続き図る。